

Comments on Q5

No.	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問5	ご意見
W010	[ - ]	アジア	日本	企業	50代	8. ライフスタイル(消費性向)	現状は、エシカルな商品＝コストアップ＝小売り価格アップとせざるを得ない傾向にあり、ただでさえ物価高の中、消費減退が怖くて企業側の対応もなかなか進まない現状があるように思います。政府の助成などがありコスト吸収ができれば、企業側の重い腰も少しは上がるのではないのでしょうか。
W012	山田 宏之	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1. 気候変動	様々な気候変動要因がある中で、温暖化のみに過剰に注目するのは良くない。一部の利益誘導に乗せられてしまう可能性が高い。
W014	[ - ]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1. 気候変動 4. 生物化学フロー(環境汚染)	気候変動問題については、改善のスピードが悪化のスピードに追い付かず、より厳しい未来が待っていると思います。また自分の専門であるプラスチック問題についても、素材の利便性と課題の認識の整合性が取れておらず、実効性のある法律や制度と社会の仕組み作りが困難な状況がしばらく続く予想します。
W016	[ - ]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	6. 人口 8. ライフスタイル(消費性向)	SDGsの内容が矛盾を持っていることをもう少し真剣に考えてほしい。持続可能な経済発展など最大の矛盾の1つだ。
W022	福田 展淳	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1. 気候変動	私は九州におり、ここ数年で多く発生している豪雨災害を目の当たりにし、気候変動に対する対策が急務であると感じる。一点は、気候変動が起こることを踏まえた対策で、国レベルでは、国土強靱化や防災対策、避難施設の強化や意識向上による災害時の避難対策が必要である。自分の分野である建築では、豪雨、台風、竜巻、洪水に備えた、新たな建築基準の構築が必要と感じる。もう一点は、気候変動を食い止めるための、省エネルギー、国産木材活用、建設時のCO2削減、建物をできるだけ長く使うための長寿命化対策を行う必要がある。建築物では、いまだに、多くの建築物が大切に使い続けられず、壊しては造る、いわゆるスクラップビルドでよいとする考え方が強いと感じる。
W027	[ - ]	アジア	日本	地方自治体	50代	1. 気候変動 4. 生物化学フロー(環境汚染)	自動車産業におけるCO2削減のための技術開発や、外食産業やコンビニなどでプラスチック使用削減に取り組むなどの動きは見られるが、一般の意識の高まりはそれほどでもないように感じている。
W035	三村 信男	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1. 気候変動 2. 生物圏保全性(生物多様性) 3. 陸域系の変化(土地利用) 5. 水資源 9. 社会、経済と環境、政策、施策	気候変動問題では、2040年頃までに世界の平均気温の上昇が1.5℃を超えると予測されている。気候変動問題は、2015年パリ協定以降、対策の進展と影響の顕在化がせめぎ合う(スピードを競う)状態になっており、10年といった近未来を目標に確実に対策を進める必要がある。さらに、気候変動問題は、生物多様性の保全や人の健康、食料、水など多くの課題と相互に関連するため、気候変動対策と他の政策がコベネフィットを持つような政策を打ち出すことが重要である。2022年に世界が経験した干ばつや熱波、山火事、洪水などは気候変動の影響がかつてない規模に達したことを示しており、今後危機感を持って対策を行うことが必要である。
W037	[ - ]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	10. その他	①戦争がサプライチェーンを通じて様々な環境問題に影響する可能性について危惧している。 ②教育の重要性について再認識している。SDGゴールは様々な世代に広く浸透し、成功したとっていいだろう(少なくとも日本では)。なぜ、どのようにして成功したか、綿密な分析を行い、地球環境問題の解決に役立てるべきである。
W051	[ - ]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	1. 気候変動	日本は、政策立案における有識者が、実際のところ有識者なのか、疑わしい所があり、科学的なリテラシーが米国などと比べて低い事が問題であると思われる。また、大学、研究所の職員は、多忙すぎるため、科学に向き合う時間が欧米研究者よりも少なく、このことが社会全体の科学リテラシーの低下をまねいていると思われる。

Comments on Q5

No.	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問5	ご意見
W052	山添 史郎	アジア	日本	地方自治体	50代	1. 気候変動 10. その他	気候変動に対する政府・行政の姿勢、また、国民・市民の意識の高まりを感じる一方で、実際に、そのことを推進するための財源・制度、組織・人員があまりに脆弱でギャップが大きい。このギャップを解消しない限り、気候変動対策を今以上に推進することは難しいと感じている。
W055	堤 純一郎	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1. 気候変動 2. 生物圏保全性(生物多様性) 3. 陸域系の変化(土地利用) 5. 水資源	近年、SDGsが万能のように思われている傾向があり、気候変動問題が全てSDGsの課題のようにすり替えられているように見える。SDGsには社会、経済を含む多様な持続可能性が含まれている一方、気候変動はその一部である場合や、より広範の分野を包括する場合、ほとんど関係ない場合もある。そのような確かな理解を社会に広めるべき段階にきていると思われる。
W058	松永 浩司	アジア	日本	企業	50代	1. 気候変動	製造業に携わる人間として、気候変動対策は喫緊の課題であり、少しでも社会貢献できるように、それをモットーとして働いております。
W059	前 章裕	アジア	日本	NGO/NPO	60代	6. 人口	環境問題の根本的な解決のためには、まず人口の抑制が必要であると思う。もちろん、人口が増えることを前提に環境問題に対処する方策はいろいろと提案されるだろうが、人口が抑制されれば、多くの問題が自ずと解決する、あるいは、問題そのものが生じないのではないか。従って、今後の環境政策を考える際には、その対応が人口抑制にどう貢献するかを常に頭に入れておく必要があると感じる。
W066	[ - ]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	10. その他	SDGsが盛んに取り上げられるようになっているが、一つの目標を達成するために起こした行動が他の目標の達成を妨げる方向に向かっているように思えることもある。全体の調整を取る司令塔のような機能が必要だと思うが、目標が17もあると正確に把握することは困難なのではないか。
W070	榮 昭博	アジア	日本	大学・研究機関	60代	7. 食糧	食材の確保、特にたんぱく質供給源としての食材の選定を早急に検討すべきと考える。昆虫の食材化の他、微生物の菌体たんぱく質の利用法を検討すべきと考えます。
W071	永津 龍一	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1. 気候変動	全世界が協調して気候変動問題に対処しなければならない中、ロシアによるウクライナ侵攻は、本来模範を示すべき大国が戦争行動を起こしていることから、国際協調に足並みの乱れと分断が生じていること、また、気候変動問題の課題解決の優先順位が低下することが深く危惧されています。このため、まず何よりも一刻も早く戦争終結へ向けての取組を進める一方、気候変動問題への実効性のある政策、取組を国際社会が着実に進めていく必要があると思います。
W074	大原 利真	アジア	日本	大学・研究機関	60代	9. 社会、経済と環境、政策、施策	平和、環境、共生は一体的に考えるべきものであり、その点を次世代層に伝えていくことが大人の責務である。今の政治・社会をリードしている大人には、そのような意識が感じられず、それ以前に自らの哲学がない(ように感じる)ことが最も懸念される点である。
W076	[ - ]	アジア	日本	企業	50代	10. その他	問1の「環境危機時計」については「不安」というより、半ば「諦め」もある。あまりにもドラスティックな対策の実施には、把握されていない副作用が大きく生じることも懸念される。
W089	滝川 徹	アジア	日本	ジャーナリズム	70代以上	1. 気候変動 6. 人口 9. 社会、経済と環境、政策、施策	地球環境問題より差し迫っているのが、ロシアのウクライナ侵攻であり、核兵器の使用もありうると危惧しています。また中国が台湾に軍事侵攻した場合、日本とアメリカはどうするのか、あるいはどうすべきなのか、覚悟を持った方が良い気がしています。次の世代に対する謝罪も含めて。
W094	渡邊 泉	アジア	日本	大学・研究機関	50代	2. 生物圏保全性(生物多様性) 8. ライフスタイル(消費性向) 9. 社会、経済と環境、政策、施策	本当は環境汚染をあげたい。しかし、最も重要な生物多様性を守るためには「政策」であり「社会」であり「ライフスタイル」を変えていく、その方向に上向きに前向きに進めなければならない。まったく変化の兆しがない。政府、メディア、そして人々の努力不足と言わざるを得ない。

Comments on Q5

No.	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問5	ご意見
W099	[ - ]	アジア	日本	その他	20代	6. 人口	人口は国によって増減の差が生じてしまっているのが現状であり、今後地域格差が生まれてくるのではないかと考えております。地域格差が出ないような取組みが今後必要だと考えており、海外人材の受け入れを積極的に行うなどが必要だと思っております。そのために各国のアピールも必要だと思いますが、ビザによる制限が生じてしまうと手間等も生じてしまうため、制限を極力撤廃していくようなことも必要であると考えております。
W102	坪内 彰	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1. 気候変動 9. 社会、経済と環境、政策、施策	ロシアによるウクライナ侵攻から派生した石油・ガスの供給危機と価格高騰は、再生可能エネルギー転換への追い風になるはずなのに、我が国では原発再稼働と石炭火力への依存を断ち切れそうにない状況に暗澹とした気持ちになる。
W104	[ - ]	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1. 気候変動 8. ライフスタイル(消費性向) 9. 社会、経済と環境、政策、施策	福島原子力発電所の事故のように、現在の地球環境の劣化については反応し政府に対策の実施を要求する。しかし、気候変動のように次世代が被る地球環境問題については、一般市民や政治家を含めた人々は、それほど気にしていない。例えば、脱炭素社会を実現するには、SDGsの多くの目標について、改善をしない限り実現は難しい。それにも拘わらず、多くの人々や企業、政治家はキャッチフレーズとしての脱炭素には目を向けても、その基盤として重要なSDGsには強い関心を示さない。この傾向は欧米に比べると日本で顕著である。
W108	[ - ]	アジア	日本	その他	60代	1. 気候変動	戦争や感染症が発生すると、環境保全どころでは無くなってしまう。また、国内では、SDGs と言う言葉は認識されつつあるが、実際の行動については、一部の企業等のみで、あまり成果は出ていないように感じます。
W114	土屋 志郎	アジア	日本	その他	70代以上	1. 気候変動 3. 陸域系の変化(土地利用) 4. 生物化学フロー(環境汚染) 5. 水資源 6. 人口 7. 食糧	世界的な人口増加に伴い、水や食料生産の基盤となる環境が悪化してきており、今後の水不足や食料不足が懸念されます。これらの問題が契機になり国家間の争いになることも想定されます。今の内から、水資源の保護や食料増産などを踏まえた均衡ある分配方法を検討しておく必要があると思います。
W116	田中 泰義	アジア	日本	ジャーナリズム	50代	1. 気候変動 2. 生物圏保全性(生物多様性) 9. 社会、経済と環境、政策、施策	気候変動は人類にとって大きな脅威だ。しかし、さまざまな調査から、海外に比べて日本では「経済活動と環境保全の両立を実現する意欲」「社会を変えていこうとする意識の高さ」に課題があるようだ。複雑化する社会において、解決すべきテーマはあまりに多く、将来が絶望的にさえ感じることもある。しかし、若者は、温暖化やジェンダー問題などに向き合う時代に生まれた。彼らの意欲と行動力が損なわれないように、中高年の意識改革も欠かせないと思う。
W127	[ - ]	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	4. 生物化学フロー(環境汚染) 5. 水資源	若い世代、小・中学生の方々にとどのように環境問題の重要性を伝えるべきか、工夫が必要と思われる。
W130	[ - ]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1. 気候変動 9. 社会、経済と環境、政策、施策	過去30年、平和な環境、時代でした。安定的に発展した結果、アメリカは自国の覇権が危うくなりそうなのに気づき始めました。それで地球環境に対する関心が薄れて、再び自国を優先するようになっていきました。世界は牽引役不在のままか、新しいリーダーが台頭するか、あるいは新しい世界の仕組みが作られるか、見守ります。
W134	[ - ]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	5. 水資源	水資源の争奪戦はグローバルな問題と化し、領土問題などと絡んで戦争の原因にもなり得る。

Comments on Q5

No.	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問5	ご意見
W139	[ - ]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	1. 気候変動 2. 生物圏保全性(生物多様性) 3. 陸域系の変化(土地利用) 5. 水資源 6. 人口 7. 食糧 8. ライフスタイル(消費性向) 9. 社会、経済と環境、政策、施策	生物多様性の保全にはとにもかくにも保全地域を設定し、人間活動を制限する必要があると思う。そのためには土地利用の厳格な管理が必要だが、食糧生産や水資源の確保、産業活動などから、実現が難しい。ゲームチェンジャーとなりうるのは世界的な人口増加の鈍化とライフスタイルの変化(肉類の摂取の見直しなどを含む)である。なお、保全地域が設定できても、気候が大きく変わってしまったら生物多様性は保全できない。気候変動と生物多様性の保全を同時に達成する行動をとり続けることが、地球環境問題の解決の鍵である。
W142	[ - ]	アジア	日本	その他	70代以上	1. 気候変動 9. 社会、経済と環境、政策、施策	現今の大きな問題は、ウクライナで起きている不合理な戦争です。人命の損傷、地域環境の悪化、クリーンエネルギー指向に逆行する有害物の散乱、住環境の破壊の深刻化など、問題山積です。一刻も早い平和の実現を切望しています。
W145	西 史郎	アジア	日本	企業	60代	1. 気候変動 2. 生物圏保全性(生物多様性) 3. 陸域系の変化(土地利用) 5. 水資源	環境貢献度評価を定量的に実施する取り組みや規則作り、標準化活動が進んでいる。これからの経済活動を環境貢献度評価することにより、経済活動と環境保護活動が両立することを期待しています。
W150	[ - ]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1. 気候変動 2. 生物圏保全性(生物多様性) 8. ライフスタイル(消費性向)	地球環境問題は、(1)気候変動、(2)生物多様性、(3)プラスチックゴミと海洋汚染、がやはり三大重要問題であると思う。そしてその解決にどれだけ効果的な対策が取られているかという点、まだまだこれからだと思われる。一部の専門家や為政者はともかく、一般の市民がどれだけこれらの重要性を認識し、自らの生活にも考慮し採り入れているか、それが問われていると思う。
W172	内田 啓一	アジア	日本	その他	70代以上	1. 気候変動	気候変動は今後人類、そしてあらゆる生態系に大きな影響を与える重要な問題である。地球温暖化の原因は二酸化炭素濃度だけが問題ということではないだろうが、大きな影響を与えるのは間違いない。しかもこの問題は、はっきり分かった時点では、残念ながら人類では簡単には対処できない。人類が健やかに存続する、あるいは生物圏が健やかに維持されるためにも、今から全力を傾けてが取り組まねばならない必須の課題である。今からではいささか遅いかもかもしれないが、今ならまだ対応可能である。人類の叡智を期待したい。待ったなしである。
W184	[ - ]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1. 気候変動 2. 生物圏保全性(生物多様性)	危機が進んでいるわりに人びとの関心は広がっていないし、政策にも反映されていないようだ。
W191	[ - ]	アジア	日本	ジャーナリズム	50代	9. 社会、経済と環境、政策、施策	ウクライナ戦争は、地球環境問題へのこれまでの取り組みを根本から覆し、逆戻りさせた。戦争を前にむなしさを感じる。
W203	[ - ]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1. 気候変動 2. 生物圏保全性(生物多様性) 4. 生物化学フロン(環境汚染)	様々な要素が絡み合った結果として、そして、原因としての気候変動を通して地球環境問題を見ている。しかし、何らかのアクションがすぐに結果に繋がる訳ではないので、成果を感じ難い、その様な特徴を持った問題であることを自身でしっかり理解すること、それを教育に繋げることが大切と考えている。
W207	竹下 敦宣	アジア	日本	ジャーナリズム	50代	1. 気候変動	気候変動は金融やマーケットからの関心も高まり、以前と比べて解決に向けた歩みは加速していると感じている。市場関係者の関心と技術革新が解決に向けた鍵を握るのは間違いない。カーボンゼロはとてつもなく高いハードルだと思う。途上国では経済成長の加速により、脱炭素技術の導入は容易ではない。先進国から支援がないと、導入は簡単に進まない。先進国からの資金拠出と途上国支援の両輪が重要になってくるだろう。

Comments on Q5

No.	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問5	ご意見
W217	勝山 正則	アジア	日本	大学・研究機関	40代	1. 気候変動 9. 社会、経済と環境、政策、施策	気候変動問題には、エネルギー問題の解決が不可欠であるが、世間的にはいわゆるクリーンエネルギーの導入が容易で、それさえ行えば問題はないとの誤解が根強い。しかし現実には、例えば、ソーラーパネルの製造に必要な資源を獲得するには地政学的問題も関わる、という当たり前のことが理解されていない。その意味では教育も必要で、高学歴社会といわれる我が国でも、大学を卒業した人材がその程度のことを理解できていない現状には懸念を覚える。一方で、大学院を修了した人材がいわゆる一般就職をしている現状もあり、日本社会として人材の活用ができていない。高度人材がそれに応じた仕事と給料を得られる社会に変えていくことが、あらゆる課題の解決に不可欠な基礎的条件なのではないかと考えている。
W219	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1. 気候変動 3. 陸域系の変化(土地利用) 7. 食糧 9. 社会、経済と環境、政策、施策	ロシアのウクライナ侵略がこれまでの地域戦争に留まらず、エスカレートして世界レベルへと拡大することが心配である。核保有国が当事者となっており、国連が全く機能していない現状は地球環境問題に対しても最重要項目であると思われるので、「戦争の脅威」も新項目として設けるべきではないだろうか。
W227	宗宮 弘明	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1. 気候変動 9. 社会、経済と環境、政策、施策	気候変動が次の世代に大きな影響を与えるので、そのための解決策を個人的にも模索してきた。しかし、ウクライナでの戦争が始まり、気候変動問題の解決が遠のいてしまった気がする。なんとか話し合いで戦争を止めたいと思っている。そして、軍事費に相当する金額のお金を気候変動防止のために使うべきだと考えている。
W236	岡田 尚憲	アジア	日本	NGO/NPO	70代以上	1. 気候変動 2. 生物圏保全性(生物多様性) 4. 生物化学フロー(環境汚染)	COPIに関する国際会議が開催され、日本政府代表が参加し意見を述べているが、その過程や結果について詳細に報告されているものを、簡単に見つけることはできない。関係者ならまだしも、一般の国民が簡単に知るのには、結構な困難を要すると考える。ニュースのみではなく、もう少し詳細な内容をわかりやすく、探しやすくすべきであり、ひいては国民の関心が地球環境問題に目をむけることになる。
W247	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	9. 社会、経済と環境、政策、施策	SDGs目標年の2030年が迫る中、明確な進捗状況が示されることもなく、危機感も共有されることもなく、次第にフェードアウトするのではないかと危惧するものです。ESG投資が話題になるなど、若干の期待を抱かせてくれる動きもあると感じております。ただESG投資について客観的評価指標などのチェック体制が未だにできていないと認識しております。
W257	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1. 気候変動 2. 生物圏保全性(生物多様性) 3. 陸域系の変化(土地利用)	政府はカーボンゼロの意味を分かっていない。エネルギー対策も政府のやっていることはおかしい。大切な自然を破壊してまで、太陽光、風力はいらぬ。
W267	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	4. 生物化学フロー(環境汚染) 7. 食糧 9. 社会、経済と環境、政策、施策	国際紛争と食糧・エネルギーが社会経済に及ぼす影響を深刻に受け止め生活する若者が増えることを期待する。
W268	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	9. 社会、経済と環境、政策、施策	意識を高め真摯に取り組む人材を育てるために、小さい子供の時から家庭や初等中等教育現場での教育が重要。それには、それを教育できる親や教師が必要。
W269	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	9. 社会、経済と環境、政策、施策	ロシアによるウクライナへの侵攻こそ最大の環境破壊である。軍事や工業施設の破壊は有害物質をまき散らし、撃ち込まれた砲弾は土壌汚染を引き起こしている。そこでは脱炭素や生物多様性の保全の訴えはまったくもって無力である。

Comments on Q5

No.	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問5	ご意見
W276	[ - ]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	8. ライフスタイル(消費性向)	個人個人で自分ライフスタイルを変えるのは実際にはなかなか難しいのではないかと考えています。そこで、社会全体として何らかの方向付けができた上で、ライフスタイルの変革を実現できるのがよいのではないのでしょうか。地球環境に大きな負荷を与えているのは、結局のところ、私達人間のありようですので、全体として上手く変えていくことができればよいのでは、などと考えています。
W288	北辻 政文	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1. 気候変動 5. 水資源 7. 食糧	食糧自給率が37%と低いわが国では、安全・安心な食糧の確保が極めて難しくなる。例えば、異常気象による干ばつや洪水。地下水の減少、紛争などが続いており、自給率をあげる農業政策の改革が待たれる。
W301	[ - ]	アジア	日本	NGO/NPO	40代	9. 社会、経済と環境、政策、施策 10. その他	地球環境問題を解決するためには、その他の社会課題(人権、ジェンダー、貧困など)も包摂した社会システムの構築が重要だと考えている。分野ごとにそれぞれが分断した状態で取組んでいては、2030年の達成は難しい。
W305	門上 希和夫	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1. 気候変動 2. 生物圏保全性(生物多様性) 8. ライフスタイル(消費性向) 9. 社会、経済と環境、政策、施策	人間は短期的な視点で考え、豊かな生活などを最優先にする。一方、地球環境問題は長期的な視点で考えて、予防原則に従い、時として自分の生活の質が下がることも受け入れる必要がある。しかし、現代社会・世界を見ると、日本のような豊かな国でさえ非常に近視眼的で目先の利益や豊かさばかりを求めている。その為、行くところまで行かない限り、自分の身に悪影響が及ぶところまで問題が悪化しない限り、本当に効果のある対策は打てないと思われる。問題は、そこまで環境が変化すると不可逆的になり、対策を講じても元には戻らず、非常に大きな悪影響が出る可能性がある。この状況を変えるには、教育と不平等の解消が有効であるが、時間がかかり非常に難しい。
W315	安齋 文明	アジア	日本	大学・研究機関	40代	1. 気候変動 6. 人口	異常な温暖化、インド・アフリカでの人口爆発が懸念されます。
W321	[ - ]	アジア	日本	その他	70代以上	1. 気候変動	日々の暮らしの中で、地球温暖化を実感している。この状況を子や孫の世代に、負の遺産として残したくない。個人の努力では限界があり、世界共通の目標として温室効果ガス排出削減の取り組みを真剣に進めて欲しい。
W327	山田 和司	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1. 気候変動 2. 生物圏保全性(生物多様性) 3. 陸域系の変化(土地利用)	将来の人口動態に対応した土地利用のビジョンを明確にした上で、人が利用するのに適した区域を絞り込み、その他の区域は野生生物が主体となる区域と人と生物が相互に利用する半自然区域に分ける事が望ましい。
W334	[ - ]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	1. 気候変動 9. 社会、経済と環境、政策、施策	地球温暖化対策が急務になっていますが、先進国と途上国との対立があり、なかなか進んでいない状況にあると感じています。今後、先進国と途上国が協力して、この問題に取り組んでいくことを願っています。
W338	[ - ]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1. 気候変動	気候変動の影響を最小限に抑えるためにいずれカーボンニュートラルを達成するのは不可欠だが、困難な温度目標達成のために多大な犠牲を払うかどうかは慎重に検討する必要があるし、また、例えば1.5度を超える温暖化ですぐさま人類が滅亡するかのような印象を若い世代に植え付けるのは将来に禍根を残すのではないか。
W339	[ - ]	アジア	日本	地方自治体	60代	1. 気候変動	気候変動の影響による異常気象は現実的な問題として体感する。日本は気候変動の影響を受けやすい国だということをもっと知らせるべきだと思う。
W360	[ - ]	アジア	日本	企業	60代	1. 気候変動 7. 食糧 8. ライフスタイル(消費性向)	環境問題を考える上で、根源となるのはやはり気候変動への対処であると考えられる。気候変動は、陸海の自然に大きな影響を与え、災害を誘発する他、食料問題も引き起こす。気候変動に対処するためには、長期間に渡るアクションが必要であり、地球上の全ての国が協力する必要がある。日本は、環境対策のテクノロジーの領域でも世界のトップランナーであり、気候変動問題の解決に向けて、リーダーシップを取ることが期待される。

Comments on Q5

No.	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問5	ご意見
W361	[ - ]	アジア	日本	企業	50代	3. 陸域系の変化(土地利用) 6. 人口 7. 食糧 8. ライフスタイル(消費性向) 9. 社会、経済と環境、政策、施策	地球環境問題は、結局人口が増えすぎているのが課題であると思う。一方で人権、飢餓をなくすことなども自分事として考えれば大事なので、思考が停止してしまう。地球資源は限られているので、人口のコントロール、技術革新に必要な人材の効率的な確保をしていくようなことを考える必要があるのかもしれない。 また、生活が便利になる一方で、人間の身体や頭脳さえも使わない方向に過剰に進んでいて、それに費やす外部エネルギーを消費している。人間はもっと動けるし、頭脳も使えるので、それらを適切に活用してエネルギー消費を減らすように歯止めをかける必要があるのかもしれない。
W376	[ - ]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1. 気候変動 2. 生物圏保全性(生物多様性) 3. 陸域系の変化(土地利用) 4. 生物化学フロー(環境汚染)	チェックをつけた4項目に対して、地球人としての私がなにを成すべきかがまったく分からない。政府も国も指針をもっと頻繁に示すべきであり、それを個人が考えるきっかけにして個としての行動を起こす必要がある。毎年、このアンケートに回答しているが、設問を考える時、どうしようもない無力感と将来的な絶望が年々、高まることに恐怖すら感じている。正直な気持ちとして、どうあるべきかが問われているのではあるが、解決すべき方向性が見えないという手詰まり感も大きい。
W380	磯部 作	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1. 気候変動 4. 生物化学フロー(環境汚染)	「気候変動」は「気候危機」までになっており、二酸化炭素の排出量の多い、エネルギー転換や産業、運輸などの分野、とりわけ、その排出量が多い企業等に対する厳しい排出規制を一刻も早く実施することが必要です。 プラスチックごみなどの海のごみを大幅に削減するため、海底、海岸、海面などで回収するとともに、海に流入する川や排水路でのごみ回収が重要であり、また、廃棄段階だけでなく、製造、流通、販売、消費段階での発生源対策が必要です。
W393	安井 伸弘	アジア	日本	その他	60代	9. 社会、経済と環境、政策、施策 10. その他	地球環境の悪化は、人間の営みの結果であって、人間がその営み方を変えるというのが処方箋だと思う。営みを変えるということは、現状の不都合な部分を修正するというだけでは済まず、国際社会全体として価値観が変わらなければならない。産業技術の開発に真っ先に成功した西欧諸国が、植民地を増やしていくことを発展と認識し、競争は正義とする価値観で出来上がった現状の社会システムが維持されるうちは、現状の営みの不都合は完全にはなくせない。歴史の反省も、競争より80億人に対する公正を上位に位置付ける考え方を確立し、社会システムを根本的に転換させなければならないと思う。
J007	[ - ]	アジア	日本	地方自治体	40代	1. 気候変動	日本が、気候変動対策として実効性ある制度、仕組み(カーボンプライシング、C&T等)を早急に導入し、世界をリードする必要がある。
J010	[ - ]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	9. 社会、経済と環境、政策、施策	地球環境問題は、全世界の問題なのだから、分裂しているうちは根本的な解決に進まないのは自明である。戦争ではなく、外交をしっかりと世界が一つになれることを願う。
J017	大森 正之	アジア	日本	大学・研究機関	60代	10. その他	戦争や軍事演習、ロケット衛星の打ち上げ(着水)などの地球環境影響を独自な項目とする必要性を強く感じています。
J019	[ - ]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	9. 社会、経済と環境、政策、施策	戦争をはじめとする直接的な大きな破壊行為を止めないと、環境問題への関心どころではなくなってしまうと思います。
J023	[ - ]	アジア	日本	その他	50代	2. 生物圏保全性(生物多様性)	生物多様性については一般的に理解がむずかしく、世間一般に浸透していない。学校教育の場から意識浸透をはかり、自分事として気候変動などと全体を俯瞰した取組みを期待したい。

## Comments on Q5

No.	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問5	ご意見
J025	与五沢 和良	アジア	日本	企業	70代以上	1. 気候変動 9. 社会、経済と環境、政策、施策	戦争は環境破壊の最たるものであり、局地的であっても全体的に害を為す。全てに優先して阻止すべきである。
J043	西田 益温	アジア	日本	その他	70代以上	1. 気候変動 2. 生物圏保全性(生物多様性) 3. 陸域系の変化(土地利用) 4. 生物化学フロー(環境汚染) 5. 水資源 6. 人口 7. 食糧 8. ライフスタイル(消費性向) 9. 社会、経済と環境、政策、施策 10. その他	原発の対応策の国際協力の構築が緊要である。地震多発国の防災対策、被害の復興・整備等の相互協力の体制の構築が必要である。
J047	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	6. 人口	人口の増加の下、貧困対策、飢餓対策、エネルギー対策を行ってもいたちごっこ。地球に住む人類の適正規模(=人口)を検討することが必要。全ての対策を持続可能なものにするためにも必須な人口対策。
J049	千脇 秀樹	アジア	日本	その他	60代		気候変動の原因となる人類の行動をいかに変えていくか。再生エネルギーの活用でさえ、日本国の政府は積極的でない。日本国民はライフスタイルの変化を望んではいない。
J053	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1. 気候変動 7. 食糧 9. 社会、経済と環境、政策、施策	ロシアのウクライナ侵攻によって、食糧の流通が滞り、自然や都市の破壊が進み、エネルギー政策の変化が激しくなっている。
J057	郡嶋 孝	アジア	日本	その他	70代以上	9. 社会、経済と環境、政策、施策	気候変動にしても廃棄物にしても、improve(改善), shift(代替)[現状を前提にして]に終始して、avoidあるいはlessの政策がない。過剰生産、過剰消費しているという認識が薄いために、過剰の是正、すなわち生産・消費(エネルギーの節エネ(省エネではない)・資源の節約(省資源ではない)の総量を減らすという政策がなく、transformationに結びついていない。
J059	[-]	アジア	日本	地方自治体	50代	1. 気候変動	2050ネットゼロカーボン社会の実現に向けて、国民の機運醸成を図るとともに、国が産業の技術革新を後押しして、社会全体で連携して温暖化対策を進めていく必要がある。